2026年（令和8年）
5月21日
（第三種郵便物認可 昭和23年4月15日）
毎月3回発行（第1,第2,第3木曜日）

今号の特集

▷機能性飲料特集 ⑥～⑦面
▷スパイス特集 ⑧～⑨面
▷ペットフード特集 ⑩～⑪面

中部飲食料新聞社ホームページ
http://chuin.net/【業界情報発信中】

第3579号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5－18－9
電話（052）571－7116代表
FAX（052）571－7118
東京局
東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話（03）5614－7531
FAX（03）5614－7532

中部飲食料新聞

大正から 食を伝えて100有余年

PPIH ロビン・フッド登場
新PB4種を強力に展開

パン・パシフィック・インターナショナルホールディングスは、愛知県あま市の「ピアゴ甚目寺店」を刷新した「驚楽の殿堂 ロビン・フッド」一号店「ロビン・フッド甚目寺店」をオープンした。

同業態はユニーの生鮮調達力とドン・キホーテの非食品のトレンドとニーズを最適化した品揃えに〝驚安DNA〟を掛け合わせた〝スーパーみたいでスーパーじゃない〟食品強化型の新業態。タイパ・コスパの高い買物体験を目指し『迷わない』をコンセプトに、曲導線や圧縮陳列は行わず商品を見つけやすくしている。一方で単品拡販や什器の高低差を活かすなどでインパクトを創出している。毎日の買物にフォーカスしてデリカカテゴリーは注力し、カネ美食品と連携して商品開発を行い〝1食あたりワンコイン〟を意識した価格設定で提供。つゆ付きのうどん・きしめんのテイクアウト、カレー・とん汁の販売などの独自の買物体験、人気高まる名古屋グルメ、スイーツなどにもこだわった。特に力を入れたのがおにぎりであり、〝選べる楽しさ〟をテーマに29種類を展開、最安値は七八円とするなど価格でも衝撃を出した。

業態の大きな特徴となるのがPBの展開であり、同業態オリジナルのPBブランド「ロビン・フッド」を展開。開発ルールに〝1推し・1キャッチ〟として「安」「得」「速」「楽」の4つのそれぞれの切り口で商品を開発し、同店開店時は50アイテムを揃え、26年末には100アイテムに拡大予定。非食品の展開も同業態の特徴であり、買場面積の約4割と広く、〝飽きさせない〟〝収益〟の両面で貢献する。このほか、サービス面では『後悔させま宣言』としてマジカ会員の購入者であれば3ヶ月以内ならば返品可能（一部対象外を除く）な独自サービスでトライアルを果敢に促す。

甚目寺店などを担当する業態転換プロジェクトの古崎芳匡第一ブロック責任者は「非食品が売場の約4割と通常店舗の3倍の規模で展開、利益率の高い非食品の貢献で食品の価格を抑える。セルフレジを増やし電子棚札を導入するなど生産性の向上に努めている。一方でドンキらしい曲導線や手描きPOPなどは抑えている。このエリアは競合の激しいエリアであるが、売りが取れるようにチャレンジしていきたい」と意気込みを語った。

なお、ピアゴからロビン・フッドの業態転換は甚目寺店のほか、ピアゴ豊川店（5月29日）、ピアゴ笠松店（同）、ピアゴ香貫店（6月26日）、ピアゴ久保田店（6月30日）の4店舗を計画している。

森永製菓
ペットと人が〝一緒に食べられる〟商品が話題に

森永製菓は「ひとともペットが同じおやつを一緒に楽しむ」という食体験を提案する『ひとともペットプロジェクト』の第1弾商品を同社126年の歴史の中で初めて開発。3月より一部販売チャネル（首都圏の一部SM、CVS、ペット専門店、ホームセンター、同社ダイレクトストア、一部EC）で販売し話題となる。

近年、ペットの家族化が進行し、ペットを家族の一員のように大切な存在として考える人が増加している。また、ペット先進国のアメリカではペットをわが子の様に考える〝ペットヒューマニゼーション〟という考え方が拡大し、ペット市場のトレンドに大きな影響を与えているという。

森永製菓グループは「世代を超えて愛されるすこやかな食を創造し続け、世界の人々の笑顔を未来につなぎます」をパーパスに掲げる。商品開発では「人と愛犬が一緒におやつを食べることは『本当に愛犬にとって幸せなのか？』という根本的な問いからスタート。東京農業大学の増田宏司教授と共同でオーナーを対象に調査を実施し、同じ体験をすることは愛犬にも人にも非常に好意的に受け止められる結果が得られた（調査で用いた評価手法は特許出願中）。同社のものづくりの基盤を活かし、ペットに関する専門知見を持つ様々なパートナーとも連携し、人と愛犬の双方においしく安全・安心な商品が完成した」（鈴木聡子新規事業開発部ひとともペットプロジェクトリーダー）。

アイテムは「ミニムーンライト with dog」「ワンゼリースティック with dog」「冷凍ホットケーキ with dog」の7品で同社の既存ブランドを意識した商品も展開。監修に獣医が関わるなどペットとペットオーナーが安心して楽しめる品質、おいしさを目指した。「成長を続けるペット市場において、人と大切なペットが食を『共有』するフードにより、ペットとオーナーが楽しく、健やかに、笑顔になれる世界を創っていく」（同社）とする。

暑さ対策ができる〝ひとくちタイプ〟inゼリー

同社は塩分、ミネラル、クエン酸の配合で、こまめに暑さ対策ができる〝ひとくちタイプ〟の「inゼリー ミニ 塩分＋」を5月19日に新発売した。

ひとくちゼリー市場は、弾力のある独特の食感や果汁感あるおいしさ、携帯性の良さなどから伸長している。近年〝二季化〟と言われるように夏が長期化し、新たな暑さ対策も求められている。

新商品は、人気のひとくちゼリーがおいしく楽しめるほか、手軽に塩分や3種のミネラル（カリウム、カルシウム、マグネシウム）、クエン酸が摂取できる。レモン味とライチ味のアソート（1袋に14個）で、気分に合わせ選べる。凍らせて食べることも可能。1個252g。

サントリー
夏季限定「サン生〈夏生〉」発売

サントリーは、「サントリー生ビール」から、昨今の猛暑下のニーズを捉えた夏季限定品「サントリー生ビール〈夏生〉」を7月7日から数量限定で新発売する。

「サントリー生ビール」は、昨年12月より「沁みわたるのどごし」の生ビールとして中味、パッケージを刷新。今年1～4月の販売実績（数量）では、ビールカテゴリー市場全体が3％減と推定するなかで、対前年15％増と伸長。また、業務用瓶・樽の取扱い店舗数は今年4月末時点で3万店を突破した。

近年、夏の猛暑・酷暑及び残暑の長期化が食品業界に様々な影響を与えているが「気温が35℃以上になるとビール類の販売数量が鈍化する傾向が見られるというレポートがあるほか、当社調査でも7割の消費者が猛暑下にビール以外（RTD、ハイボールなど）の酒類を飲む頻度が高まるとの回答があった」（同社ビール・RTD部の永尾真紀氏）という。

「サントリー生ビール」初の限定品となる〈夏生〉は、サン生の味わいの骨格はそのままに、カリスタホップやサファイアホップなど希少なアロマホップを一部使用。猛暑に最適な爽やかな香りとスムーズなのど通り、すっきりした軽やかな後味が特徴。パッケージは爽やかな白をベースとし、〝猛暑限定〟のアイコンも配した。

軽快な香りと爽快感を備え、夏との相性の良い本体商品と共に、電動サン生急冷器が当たる6缶パックの数量限定品の発売や〝爽快感〟を伝えるコミュニケーション施策、名古屋をはじめ全国6都市での野外イベントなど活発な夏季プロモーションを実施する。

ニップン
新社長に大田尾常務が内定

ニップンの代表取締役社長・社長執行役員に大田尾亨取締役常務執行役員が代表取締役会長に就任する。

大田尾氏は1963年11月26日生まれ、佐賀県出身。87年に佐賀大学経済学部を卒業、同社入社。13年に総務部秘書室長、20年に経理・財務部長、22年に執行役員経理・財務部長、24年に取締役執行役員、25年に取締役常務執行役員に就いた。

イオン
豊橋市と包括協定

イオンは、愛知県豊橋市と連携及び協力に関する包括協定を締結した。

イオンと豊橋市はこれまでにも「イオン豊橋南店」での防災啓発活動や地域産品販売会の開催など市の観光のPRなどで連携を強化してきた。協定の主な連携事項は①子育て・教育②産業③暮らしの安全・安心④健康・医療・福祉⑤文化・スポーツ振興⑥観光振興⑦環境保全⑧その他。

あらたグループ
ジャペル株式会社
本社 〒486-0802 愛知県春日井市桃山町 3-105 TEL0568-85-4111（代表）FAX0568-85-4251